

わからないということでお本は結末に進む。

部落問題の当事者は、部落出身の人間なのだろうか？ 紋切り型にいえば、一九六五年の同和対策審議会答申では、部落問題は「国民的課題」だと言っている。そもそも、差別－被差別の関係性は、両者にとっての問題である。差別の結果としての実態的課題はさておき、結婚という究極の関係性における部落問題は、両方から乗り越えるものであって、血に流れている「哀しみ」などといわれると、それは一九七〇年代の二〇代の私にはついていけるが、いい年になつた二一世紀の私はしらけてしまうのである。部落問題の当事者は、角岡伸彦さんの言葉を借りれば「部落問題関係者」みんななのである。当事者性を語ってしまっては、対話はなりたたない。ただし、部落問題関係者のなかにも、状況によって権力関係が生まれることがあるから、全く対等な当事者であるともいえないのはもちろんである。

学生にすすめられるか？（自問自答）

最初に、この本は私の授業のレポート「おすすめしますこの一冊」で取り上げられていたことは述べ

た。部落問題についての本は、在日朝鮮人に関する本、とりわけ「在日文学」といわれるほどの厚い層をなしている状況に比べると、驚くほど少ない。いまだに、『破戒』と『橋のない川』である。もちろん、屠場労働について描いている佐川光晴『生活の設計』などは、私個人は佳作だと思っているが、中上健次以外にメジャーな方をあまり知らない。

そういう意味では、学生に部落問題を描いている「最近の」小説というところでは、すすめることもできる。是非読みなさいではなく、読んでみたら、である。タレント性が高い村崎太郎さんの半生と結婚差別に関わる本で、学生には部落差別の現存を少しは実感させることができるのである。しかし、これができるからである。しかし、

（幻冬舎刊、二〇〇八年、一五七五円）

本の紹介

水内俊雄・加藤政洋・大城直樹著 『モダン都市の系譜 地図から読み解く社会と空間』

杉本弘幸
(京都市市政史編纂助手)

本書のキヤツチフレーズは、「都市空間を構築する権力の諸相を、

【特論3A】横溝正史の描く神戸のインナーシティ

【特論3B】横溝正史の描く神戸のインナーシティ

【特論4A】郊外の誕生とその発展

【特論4B】阪神間の邸宅街

【特論5A】地方都市和歌山のモダン都市

【特論5B】大阪の新開地の風景

【特論5C】大阪の新開地の風景

【特論6A】盛り場化する商店街

【特論6B】モダン都市の賑わい

【特論7A】路地—宇野浩二の「十軒路地」

【特論7B】再訪より

【特論7C】新世界からジャン

【特論7D】ジャン横丁、そして飛田へ

【特論7E】戦災と復興

【特論7F】戦時の都市建設—意図

【特論7G】せざる近代化

【特論7H】阪神大水害

市空間を構築する権力の諸相を、地図と風景の中に読む。都市を生産する政治、経済、権力の作用、そこから生み出されるさまざまな社会問題の痕跡を、歴史都市・京阪神を舞台に解説する」というものである。都市を対象とした地理学の第一線の研究者三人が描いた都市空間をめぐる入門書である。

以下、目次を示す。

序 章 地と図の往還

第I部 近代都市空間の成立

第1章 前近代都市・城下町

【特論1A】都市周縁の近代—墓地・花街・悪所

第2章 城下町の明治—近代都市への変貌

【特論2A】神戸市の土地利用調整と市街地の建設

【特論2B】新世界からジャン

【特論2C】路地—宇野浩二の「十軒路地」

【特論2D】再訪より

【特論2E】新世界からジャン

【特論2F】ジャン横丁、そして飛田へ

【特論2G】戦災と復興

【特論2H】戦時の都市建設—意図

【特論2I】せざる近代化

【特論2J】阪神大水害

第8章 建物疎開・空襲・戦災
復興

【特論8A】花街から赤線へ

第IV部 高度成長と現代の都市空間

第9章 バラック／スラムと住宅要求運動

【特論9A】沖縄出身者の生活

世界の変遷

【特論9B】猪飼野・アバッチ
部落—昭和30年代の在日の生

活空間

【特論10A】釜ヶ崎、あいりん
地域

【特論10B】スプロール・団地／イ
ンナーシティ問題

【特論10C】金ヶ崎、あいりん
地域

【特論10D】同和地区の変容
クへ

【特論10E】民族からエスニッ
クへ

第11章 大都市の光と影

以上の叙述は全て三人のそれぞれ持ち寄った草稿を元に討議を重ね、共同で改訂を加え、加筆を行なうというスタイルをとっているため、各章や特論は全て三人の共同作業であるといふ。徹底した共同作業で形作られた書であるといふよう。本書は大学での授業のテキストとして作られたといふこともあり、非常に平易な叙述がその特徴としてあげられるだろう。

さて、本書では関西圏としての京都、大阪、神戸がその分析対象になる。歴史的な都心の周辺部、

すなわち「インナーリング」を中心としており、これらは「都市計画の暗黒時代」に形成された市街地である。そして、関西圏の特徴として、「インナーリング」から都市論を発信するという意図も込められている。

例えば大阪では明治末から大正時代にかけて、これらの「インナーリング」と称される地域に零細な工場群が集積した。そして工場労働者達の住宅地や歓樂街が出現する。その外側で計画的な土地利用が進展した結果、無秩序な市街地が同心円状に取り残された。つまり、JR大阪環状線に沿って、工場地帯、密集した長屋地区、沖縄や朝鮮半島から来住した人々の定住地、日雇労働者の居住地などが「インナーリング」として連鎖しつつ、存在していたのである。

まず、序章をみると彼ら自身の「地理学」というディシプリン（専門分野）への一種のこだわりが見て取れる。あくまで学際的な視点で、たながら、あえて「読図」という地理学独特的手法を提示していく。本書は、大学での授業のテキストとして作られたといふこともあり、非常に平易な叙述がその特徴としてあげられるだろう。

会的にも都市問題の孵化器」とみなしている。そしてホームレスや様々な社会的マイノリティの問題に代表される今日まで積み残された様々な社会問題に触れている。また、都市の光と影の部分を表現する一連の地図を用意して、都市の華やかさの背後に潜む都市問題を地図を通じて読みとることを提示する。図版も多く、本書を持って街に出ていけば、これまでと全く違った目で様々な都市をみることができるようになるだろう。歴史都市といわれる京都・大阪・神戸をさらに深い視点で歩くことができる。

従来、地図を利用することはあっても、単なる道案内としてしか使つたことのないほとんどの人々にとって、地図や写真などのビジュアル的な史料からこれほど多くの歴史的、社会的、文化的、経済的な様々な事象がはつきりと読み取れるということに新たな目を開かれるだろう。そして、実際に現地をフィールドワークすることによつて、現実のフィールドが持つリアリティを感じることができる。

本書が示した今後の課題は大きい。従来、被差別部落史や在日朝鮮人史、社会政策史や社会福祉史研究の「分野史」ごとに研究がなされた研究動向を打破するため、それら複合的な「都市下層社会」に対する政策的対応を統一した視点で論じる必要が、現在の研究状況ではある。これまで被差別部落史研究や、在日朝鮮人史研究の中でも多くの研究成果を挙げてきた。「貧困層」や「労働者」を対象とした社会政策・社会福祉

特集 社会的セーフティネットを考える

本の紹介

『よみがえった黒べえ』（木下川解放子ども会文、渡辺つむぎ絵）／『在日の恋人』（高嶺格著）／『人権のまちをゆく』（全国同和教育研究協議会編）／『発達障害のある子どものきょうだいたち一大人へのステップと支援』（吉川かおり著）／『障害者はどう生きてきたか—戦前戦後障害者運動史』（杉本章著）／『DVD ちゃんときいて受けとめて』（SSH全国ネットワーク制作・著作）歴史を直視してこそ責任をはたしめる 朝治武著『アジア・太平洋戦争と全国水平社』 笠松明広

部落文化を訪ねて 9 近世身分制度と朝鮮侵略・キリスト教禁止 川元祥一

部落・差別の歴史 そのとらえ直しと論点 13 第2章 長吏・かわたの仕事と役割をめぐって 8 医薬業、竹筍作りなどの関係 藤沢靖介

部落解放 612号（解放出版社刊、2009.4）：630円

特集 五月病をこじらせろ！ 働き方を考える

本の紹介

『太郎が恋をする頃までには…』（栗原美和子著）／『良い支援？知的障害/自閉の人たちの自立生活と支援』（寺本晃久〔ほか〕著）／『街場の教育論』（内田樹著）／『ネイティブ・アメリカン 先住民社会の現在』（鎌田遵著）／『障害者の権利と法的諸問題 障害者自立支援法を中心に』（九州弁護士会連合会・大分県弁護士会編）／『唄い継ぐこころ 私の中の「竹田の子守唄」』（改進支部情宣部編）

日本でマイノリティー出身の首相は可能か？1月16日付ニューヨークタイムズの記事を読んで 朴育美

年越し派遣村から見えるもの 豊田直巳

私が字が書けんことを、みんな、全然知らんかった。口がたちまるもんじやけえ。語り 井上ハツミ

未来を紡ぐ大地から—交流18年の軌跡 南インド・タミルナドゥのダリット村開発プロジェクトについて 安田耕一

部落・差別の歴史 そのとらえ直しと論点 14 第2章 長吏・かわたの仕事と役割をめぐって 9 芸能と長吏・かわた、非人などの関係 藤沢靖介

部落解放研究 184（部落解放・人権研究所刊、2009.1）：1,000円

特集 人権学習における「参加型」再考

「人権教育のための世界プログラム」と「人権教育・啓発推進法」を活用した取り組みの現状と課題—自治体の取り組みアンケート調査を踏まえて 友永健三

部落解放教育と学校ソーシャルワーク（SSW）—両者の接点と今後の課題を考えるために 住友剛

合衆国におけるコミュニティ・スクーリングの現状 3

ハヤシザキ カズヒコ/レイチェル・ウィンター

書評

辻本一英著『阿波のでこまわし』 水本正人／三浦耕吉

郎編著『屠場 みる・きく・たべる・かく—食肉センターで働く人びと』 岸衛／原田琢也著『アイデンティティと学力に関する研究—「学力大合唱の時代」に向けて 同和教育の現場から』 川口俊明／岸裕司著『学校開放でまち育て—サスティナブルタウンをめざして』 大橋保明

部落解放研究 15（広島部落解放研究所刊、2009.1）：1,000円

戸籍謄本等不正取得事件と身元調査根絶の闘い 山下真澄

人権課題の認知状況とその規定要因に関する一考察—大崎上島町の人権意識調査から 伊藤泰郎

マックス・ウェーバーの歴史分析—部落問題研究に向けて— 藤田成俊

アフター・コミュニティ？アフター・アイデンティティ？—在日朝鮮人のアイデンティフィケーションの批判的考察— 文貞實

植民地沖縄におけるネオリベラリズムと反抗—ヤンキー・サブカルチャーズ研究序説— 打越正行

大学における人権学習履修状況調査から見えること 淳上和俊

ライツ 117（鳥取市人権情報センター刊、2009.2）

今月のいちおし！『愛知における部落差別の現状』（部落解放同盟愛知県連合会作成）坂根政代

リベラシオン 132（福岡県人権研究所刊、2008.12）：1,000円

特集 人権のまちづくり

小特集 三苦鐵児先生を偲ぶ

席田・月隈の社会運動と生活 2 金山登郎

図書の紹介 『対論 部落問題』（組坂繁之・高山文彦著）

竹森健二郎

リベラシオン 133（福岡県人権研究所刊、2009.3）：1,000円

隣保館と福祉

これから隣保館の役割 原田悟志／隣保館の相談事業とソーシャルワーク 隣保館活動とソーシャル・ケースワーク導入の意味 富島喜揮

人権教育

「第1次とりまとめ」審議過程からみえる人権教育観 板山勝樹／人権学習の実際と今日的課題 教育現場の現実と悩みと、更なる広がりを求めて うんのまなぶ／「引き揚げ港・博多」授業化の試み 聖福寮の子ども（戦災孤児）と二日市保養所（墮胎病院）の命 そのだひさこ 部落が語りかけるとき 岩田芳之さん 聞き書き 加藤陽一

席田・月隈の社会運動と生活 3 金山登郎